

ヘキサゴンクラブ DBC の皆さま

東日本大震災支援活動の近況報告

大震災が発生してまもなく1年7か月を迎えようとしておりますが、一年前の状況に比べ、被災地は瓦礫撤去も除々に進み、一般ボランティアのワークが激減し、ボランティアセンターの機能縮小が健著に見受けられます。被災者の生活が避難所から仮設住宅へと変化した。昨年要望が多くあった物資支援が最近では減少し、仮設住宅行事へのボランティア派遣や運営協力を求められるケースが増えてきております。そのような状況の中で、仙台トライアングルクラブ(大震災支援仙台3クラブ)は、YMCAボランティア支援センターとともに、被災地からの直接支援要請を受けて「仮設住宅夏祭り応援協力」や「流灯花火大会応援出店」、被災地施設改修工事資金協力等を行いました。特に、力を入れたのは、被災地の実情を一人でも多くの人に実感していただくために、東日本区・北東部の支援を得て、この夏は3回の被災地ツアーを実施したことでした。

ヘキサゴンクラブの皆さんにもご覧いただいた山元町で継続してきた「イチゴ復活プロジェクト」も新しい展開が見られました。昨年来、岩佐イチゴ農園の瓦礫撤去から始まったプロジェクトは、2軒目となる渡辺イチゴ農園の支援活動に繋がり、津波により全てのイチゴの苗を失ったイチゴの産地山元町の復興へ期待が持たれるとともに、今後、3軒目、4件目とイチゴの栽培を再開する農家が増えて行くことを期待しております。

また、ヘキサゴンクラブさんにご支援いただいております仙台YMCA幼稚園奨学金園児2名の近況ですが、二人とも震災時のトラウマも消え、元気で通園し、すっかり幼稚園生活にも慣れたようです。

先日、ご夫婦より別添の通りお手紙を頂戴しました。これもひとえに、ヘキサゴンクラブのご支援の賜物と改めてお礼と感謝を申し上げます。

私たち仙台トライアングルクラブ一同は、刻々と変化する被災地の皆さんが何を必要としているかを常に念頭におきながら活動してまいりますので、今後とも引き続き、ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2012年10月5日

仙台トライアングルクラブ 委員長 清水弘一
(仙台・仙台青葉城・仙台広瀬川)

(1) 絆の大皿 (YMCA玄関に展示)



(2) ヘキサゴン・西日本区理事書記来仙 (5月29日)



(3) 奇跡の一本松 (陸前高田市)



9月12日に切断されたが、加工され来年2月には、東日本大震災のシンボルとして元に戻される。

(4) シカゴ・ウエスト・タック (YMCA コースボランティア来仙)



(5) 山元町イチゴ農園 (新しいハウスが次々と建てられる)

